



目黒区教育委員会教育長 様

平成25年10月30日

目黒区立学校第三者評価  
評価責任者 植田 みどり

目黒区立田道小学校第三者評価結果報告書

1 第三者評価の実施内容

- (1) 第1回学校訪問 平成25年6月16日(日) 午前9時30分～午後4時00分
  - ・校長、PTA役員、学校評議員を対象としたヒアリング
  - ・教育活動の参観
- (2) 第2回学校訪問 平成25年6月26日(水) 午前9時30分～午後4時00分
  - ・副校長、主幹養護教諭を対象としたヒアリング
  - ・教育活動の参観
  - ・評価者から学校への助言

2 評価者

国立教育政策研究所 教育政策・評価研究部 総括研究官 植田 みどり  
 元新宿区立落合中学校長 新宿区教育委員会事務局教育指導課 学校支援アドバイザー 馬場 宗生

3 評価結果

評価項目		評価
(1) 前年度の学校評価について	ア 四者による学校評価アンケート結果を踏まえた学校の自己評価の内容	<p>四者の比較、経年の比較、自由記述の分析など評価結果から課題の抽出を的確に行っている点は評価できる。しかし、評価可能な指標の設定、多様な評価データの収集など検証という点ではまだ不十分な点もある。</p> <p>保護者や地域住民からの評価の精度を上げていくためにも、アンケートの表現や配布等の工夫を図り、回答者数を増やす必要がある。</p> <p>教育課程の編成に生かし、児童理解や、指導と評価の一体化に向けた取組に活用している。改善策の作成により、教職員の学校経営への参画意欲を喚起することにつながっている。</p>
	イ 学校関係者評価結果に基づいた教育課程の編成	<p>学校関係者評価を担う学校評議員が的確な評価を行えるよう、情報提供等の工夫が必要である。</p> <p>地域との連携についての24年度の評価が低かったことから、広報活動の工夫が見られる。教育活動への理解を深めるためにも更に方法や内容を工夫し、継続して発信していくことが必要である。</p>
(2) 学校評価結果を踏まえた学校運営の改善について	ア 教育課程の実施状況	<p>授業規律の確保のために「生活指導基準」を作成している。教員間の共通理解を図る取組はなされているが、実際には指導の徹底にはばらつきがある点は課題である。</p> <p>言語活動を重視している。しかし、実際の授業では、発問の内容や表現の機会等の工夫が十分にされている教員とそうでない教員の差が見られる。</p> <p>特別活動に偏重する傾向がある。行事の精選を行い、次年度の授業時数の確保を図っていく必要がある。</p> <p>平成21・22年度目黒区教育委員会教育開発指定校としての取組が定着しており、教員が自信をもって指導をしていることから、道徳教育の評価が高い。道徳教育で培っている授業力を他教科においても活用できるようにすることが課題である。</p>

	イ 運営組織の状況	校長は、ミドルアップダウン型の運営組織の確立を目指している。そのための人材の育成、教員の意識改革を更に進め、実質的に機能するような工夫が必要である。 授業力の向上を重要課題と捉え、主任教諭による若手教員の指導をOJTに位置付け実施するなど、教員の資質の向上を具体的に実施している。
	ウ 家庭や地域との連携状況	校長からの発信により、教育活動への理解は高まっており、学校へ寄せる地域の協力・支援は厚く、連携状況はよい。 保護者や地域の読み聞かせ活動など学校への支援活動は充実している。今後は相互連携の活動の推進を図るなどさらなる発展を期待したい。
(3) その他	・特色ある教育活動 ・特筆すべき優れた取組	地域が子どもを育てるといふ「田道共育目標」を学校、保護者、地域が共通して理解している。 体力測定の結果をもとに、毎日長距離走を取り入れるなど体力向上に努めている。 異学年交流による縦割り班活動の活発化を図り、思いやりの心や健全な友人関係の醸成につながっている。
	・学校間連携の状況	幼保小連携に力を入れ、行事への招待、相互訪問による情報の共有などに取り組んでいる。 第三中学校、下目黒小学校との3校連絡会があり、年3回交流を行っている。いじめ問題を考える集いでは、中学生が小学生をリードし共に問題解決してまとめ上げていく姿に、地域から高い評価を受けている。 今年度から第三中学校区としてキャリア教育に関する小・中9年間の指導計画を作成している。今後の取組に期待したい。

#### 4 総合評価

校長は、ミドルアップダウン型の組織モデルを示している。その組織モデルに基づく学校経営を行うためにも、副校長、主幹教諭を的確に機能させることが重要である。

校長は、いろいろなアイデアをもち、新しいこと、改革に積極的である。また教職員には連携協力の輪がある。これらの良い点を活かし、副校長、主幹教諭などミドル層も積極的に関わり、組織的に実現できるような工夫をすることを期待したい。

学校評価においては、データの分析は緻密になされている。今後はデータ分析から解明された課題解決のための具体的な方策を考え、それを実施する計画を立て、その結果を検証する指標やデータの明確化を図るといふ仕組みづくりが必要である。そうすることにより、学校評価を活用した学校改善に結びつくと考えらる。

「田道共育目標」といふ地域が子どもを育てるといふ言葉を学校だけでなく、地域、保護者も理解している。このことは素晴らしいことである。その理念を実現するためにも、学校評価におけるアンケートの工夫や具体的な活動の構築などを今後期待したい。

基本的な生活習慣の定着の徹底や学力向上及びそのための授業力向上という課題に取り組んでおり、評価結果に基づき、具体的な方策を用いた学校改善が進められているといえる。

教員の授業力に差が見られることから、実践の共有化を図ったり、学び合う場を確保したりするなどの対策が必要である。

ICTに長けた校長、ICT環境の整備など、ICTを活用した授業改善に取り組む環境は整い始めている。今後は、教員のICTの活用能力の育成、授業での活用実践の共有などソフト面での充実が必要である。ベテラン教員と若手教員がペアを組むといった組織体制もあることから、今後の発展に期待したい。